

日本文化体験交流塾では、テーマ「浮世絵を生んだ技術の探訪」(体験型講座)の受講生を募集します。

浮世絵というと、喜多川歌麿、安藤広重など、絵師の名前が浮かびます。しかし、ヨーロッパで高く評価された浮世絵が生まれたのは、和紙、絵の具、彫り、摺りなど、各職人達の卓越した技術があったからです。今回は、そうした技術の源流を探ります。

◆会場 小津本館ビル小津本館ビル 〒103-8435 東京都中央区日本橋本町 3-6-2

◆時間 各 10 時～12 時

◆講義料 1 万 4 千円 (一括申し込み)

◆内容

第 1 回 9 月 1 日(月)「和本入門」橋口こう之介(誠心堂書店主、上智大学非常勤講師)

江戸時代、日本の識字率は世界一と言われています。それを可能にしたのは和本の大量発行であり、木版印刷の技術です。浮世絵を生んだ和紙、版木、摺りといった技術は、和本制作のなかで培われたものでした。

第 2 回 9 月 10 日(水)「浮世絵の彫りと摺り」上田真吾(富士木版工房)

浮世絵の素晴らしさは、その多色刷りです。同じ時代のヨーロッパの多色刷りとは、雲泥の差があります。現代では、数少ない摺り師である上田氏が実演を交えて、彫りと摺りの技術を解説します。

第 3 回 9 月 29 日(月)「和紙・紙漉き」小津スタッフ

和紙は洋紙に比べ繊維が 10 倍程度長いとも言われ、丈夫な紙こそ、多色摺りを可能にし、また長期の保存を可能にした。紙漉き体験もしながら、和紙について考えます。

第 4 回 10 月 6 日(月)「絵師・葛飾北斎」小山周子(江戸・東京博物館学芸員)

葛飾北斎の一生を振り返り、絵師の生活を紹介します。また、誰よりも近代絵画の技法を学んだ北斎が、ヨーロッパ絵画に大きな影響を与えた不思議な縁についても、お話しします。

第 5 回 10 月 28 日(火)「絵の具」杉田桂子(「金界堂」店主)

日本絵の具は、同じ色でも粒子の大きさが変わります。例えば、講師の経営する日本画材店では、1600 色もの絵の具が売られています。英語も堪能なご主人が絵の具の秘密を紹介します。

◆申し込み方法

日本文化体験交流塾ホームページ<http://www.ijcee.com/>から、お申し込みください。

定員 30 人(先着順) 申し込み締め切り 8 月 17 日(日)